

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年5月26日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年5月26日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【定検機材倉庫B棟の天井クレーンガーター受けのひび割れについて】 当社社員が、定検機材倉庫B棟の天井クレーン点検中に天井クレーンガーター受け(※)にひび割れがあることを確認。 当該クレーンについては、修理完了までの間、使用を中止した。 使用中止の間は、他の方法にて運搬が可能なため影響なし。 原因は、3月16日に発生した地震による影響と推定。 今後、修理予定。</p> <p>※ 天井クレーンガーター受け:天井クレーンの走行レールを支えている部材</p>	GⅢ	5月25日
2	<p>【共用プール建屋の二酸化炭素消火設備起動用容器弁電磁コイルの故障について】 協力企業作業員が共用プール建屋の二酸化炭素消火設備点検に伴い、容器弁から電磁コイルを取り外した際に破開針(※)と電磁コイルの軸が外れて、機構内部に収めることができなくなった。 今後修理を予定しているが、修理完了までに火災が発生した場合においても、手動により二酸化炭素消火設備を使用することが可能なため消火に影響なし。</p> <p>※ 破開針:起動用ガスを放出させるための針</p>	GⅢ	5月24日
3	<p>【5号機残留熱除去ポンプ(B)原子炉圧力容器側吸込弁のシート漏えいについて】 当直員が、5号機残留熱除去ポンプ(B)点検の為、系統の隔離・水抜きを実施し、中央制御室にて経過観察中に原子炉炉水位がゆっくり低下していることを確認。 調査の結果、原子炉と残留熱除去ポンプ(B)原子炉圧力容器側吸込弁の間の弁を「全閉」としたところ、原子炉水位の低下が止まったことから、残留熱除去ポンプ(B)原子炉圧力容器側吸込弁のシート漏えいと判断。 待機中である残留熱除去ポンプ(D)が運転可能であるため、系統への影響なし。 当該弁については、分解点検を検討。</p>	GⅢ	5月20日